玖波中だより　No.6

大竹市立玖波中学校　令和５年９月１日

学校教育目標「自他を大切にし，主体的に考え行動できる生徒の育成」

発行責任者　小田　大介　　文責　藤川　健二

２学期始業式　式辞「夢を原動力に！」

みなさん　おはようございます。今日から２学期が始まります。こうして，みなさんの元気な姿，笑顔を見ることができて，大変うれしく思います。

さて，２学期が始まるにあたり，「夢を原動力に！」というタイトルで話をします。

１学期に，学校朝会で，「夢」について話をしました。私は，大谷翔平が大リーガーになるために，高校生の時に書いたマンダラチャートを紹介しました。夏休みの課題にマンダラチャートを作成するようにとお願いしていました。今から見るのをとても楽しみにしています。

そして，夢スピーチとして，福本先生が８０歳ランナーとして新聞に掲載されると熱く語ってくださいました。いくつになっても夢を持つこと，そしてそれにチャレンジすることの素晴らしさを学びました。

そこで，今日は「夢」に関わって，イソップ寓話の「３人のレンガ職人」という話を紹介します。

ある旅人が，道中で出会った３人のレンガ職人に「何をしているですか」と話しかけるところから始まります。

旅人がレンガ職人の A さんに尋ねると，A さんは「見ればわかるだろ。親方から言われてレンガを積んでいるのさ」っと素っ気なく答えて，嫌々レンガを積んでいました。

次に，旅人がレンガ職人の B さんに尋ねると，B さんは「レンガを積んでお金を稼いでいるんだよ」と答えて，一生懸命にレンガを積んでいました。

そして最後に，旅人がレンガ職人の C さんに同じ質問をしました。そうするとレンガ職人のＣさんは次のように答えました。

旅人が，レンガ職人のＣさんに「何をしているのですか」と尋ねると，Ｃさんは「レンガを積んで多くの人が喜んでくれる大聖堂（教会）を造っているんだ」と目を輝かせながら，活き活きとレンガを積んでいました。

同じレンガを積む仕事をしていても，仕事に対する姿勢がそれぞれ異なります。

A さんは，レンガを積む仕事について，「やらされている」という意識が強いのかもしれません。少なくとも，レンガを積む仕事をやりたいと思っておらず，ただ，作業としてやっていると思っているのではないでしょうか。

Ｂさんはどうでしょうか。「お金を稼ぐために」レンガを積む仕事をしているので，他にもっとお金がもらえる仕事があれば，すぐにそちらに行ってしまいそうです。仕事はお金のためだという意識の強い人です。

最後のＣさんはどうでしょうか。Ｃさんは，「人々のために大聖堂（教会）を造る」という大きな目的があります。人々のためになることが，この人のレンガを積む仕事の大きなモチベーションになっています。自分の仕事をやりがいのある仕事だと感じているようです。

この３人のうち，どの人の考え方（姿勢）が良いとか悪いとかという判断はできません。ただ，レンガを積んでいる時間，つまり仕事をしている時間，幸せな気持ちなのは誰かと考えると，最後のＣさんなのは明らかです。Ｃさんは，自分のした仕事が誰かの笑顔を作ることができる，そんなことを想像しながら働いています。そんな人は自分の仕事に誇りを持ちながら働ける人です。

この話を知った時，仕事を勉強に置き換えて考えることができると思いました。

Ａさんのように「やらされている」では，なかなか身に付きませんね。また，Ｂさんのように，点数が取りたいと思う気持ちだけでは，どこかで挫折してしまうかもしれません。しかし，Ｃさんのように，目の前の勉強が，世のため，人のためになる仕事につながる，それが自分の夢や目標と考えられれば，楽しく，ワクワクした気持ちで取り組むことができると思います。

１学期の終わりに，みなさんにアンケートを書いてもらいました。その中で，「将来叶えたい夢や希望がありますか」という質問に対して，肯定的な回答は「90.0%」でした。また，「将来の夢や目標を叶えるために努力している」という質問について，肯定的な回答は「84.0%」でした。この「夢」に係る２つの質問が「100%」なればと願っています。夢を持ち，実現させるために，目の前の勉強や部活動などに，レンガ職人のＣさんのような考え方（姿勢）で取り組んでほしい，そんな２学期になればと思います。

２学期は，９月に江田島宿泊体験学習，下瀬美術館への校外学習，１０月新人大会，１１月文化祭，１２月本校出身の池崎愛理さんの講演会など，ワクワクする行事が目白押しです。

夢を原動力にして，自分を成長させる学期にしていきましょう。

校歌斉唱

学級・生徒会の決意表明

生徒指導主事による講話